

# WG Bergkloster

ドイツ／ラインヘッセン  
ヴァイングート・ベルククロシュター

## 畑でもセラーでも愛情と熱いエネルギー以外は何も加えない！

ラインヘッセン地方からなんと4人目のご紹介です。

これまでにWeingut Worner(マルティンヴェルナー /通称マルト)、Weingut Mann(アンディマン)、Weingut Walldorf(マキシミアン・デクスハイマー /通称マックス)の3人を先にご紹介させて頂きましたが、とっておきの若者です。

ご存じ、ラインヘッセン地方は総栽培面積26,600ヘクタールにおよぶドイツ最大のワイン生産地で、マインツに近い「ライン川の膝」と呼ばれる蛇行地帯に接し、栽培品種の多様さで知られています。

多様な土壌が見られますが、最も多いのがレスと砂の土壌であり、珪岩、斑岩、スレート、火山性土壌なども分布しており、粘土、砂や小石が多い土壌もあり土壌の宝庫といえます。

多様な土壌とマイクロ気候の恩恵を受け、ラインヘッセン地方で栽培されているブドウ品種は実に多ブドウ彩ですが、意欲ある次代(時代)を担う若者が次々に現れていることもこの地の新しい特徴といえそうです。

ラインヘッセン地方の南東部にあるWesthfen村は、10km弱東側にライン川が南北に流れる影響で先の3人のエリアより暖かいマイクロ気候をもちます。土壌はレス土壌と石灰土壌。その地でブドウ栽培・ワイン造りを続けてきたWeingut Bergkloster、8haの畑を代々守ってきました。

次代の当主Jason、明るく真直ぐでいつも笑顔、すごく大らかなでありながら、芯が太い意思の強さも垣間見える、まさに好青年です。

彼がガイゼンハイム大学で醸造を学び(2013年に卒業)、実家に戻り初めて自分で仕込んだVTGが2014年。この年から実家でコツコツと経験を積みながらドイツ、オーストリアでのWeingutでも研修を積んでいきます。

畑は元々両親が2000年代初頭からBioに転換しており2006年には”EU bio Logo”の認証も取っていましたので、恵まれた環境でのスタートと言えます。

2017年に全ての他Weingutでの研修を終え、2.5haの畑を両親から譲り受け完全に実家での自分のブドウ栽培・ワイン造りに集中し始めます。

『自然を最大限尊重し、ブドウ樹が成長する過程やセラー内で自然と微生物を信じ余計な介入や妨げは絶対にしない。愛情と熱いエネルギー以外は何も加えない』というのが彼のPhilosophyです。

醸造面でもいわゆる0/0、無清澄・無濾過・亜硫酸無添加での仕込みを2017年から続けております。

初訪問は2019年6月。初対面、初訪問にも拘らず疲れている僕らをWelcomeな雰囲気満タンで迎えてくれ、彼のMama手作りのランチも用意してくれていました。とても暖かい雰囲気と弾んだ会話からスタートしたのをよく覚えています。

畑を見て醸造所を見て、初めて彼のワインを試飲したこの時、最も印象に残ったのは、実はワインよりもJasonの人柄そのもの。

一言でいうと”超いいヤツじゃん！”。

しかし、この時試飲させて頂いた2018VTGはまだほとんどのキュヴェがSuper粗削りで正直にいうとチョイスがとても難しかったのです。しかし！きっと彼はこのいいワインを造るに違いない！との思いと勤が強く働き、将来はアルザスのJulien Mayerようになるのでは、、、との直感もあり1キュヴェだけをチョイス。この時、彼にも正直な感想を伝えたのですが、もちろん出来るだけ失礼がないように、でもオブラートに包まないように言葉を選び、それなのに彼は”言ってる事はよくわかるよ。この先をみていてくれ”と、とても清々しい笑顔で返してくれました。

その時の立ち位置や仕上がったワインのポテンシャルをよく把握しており、改善点や将来進みたい方向や描きたい画が彼には見えていたのだと思います。

その後の訪問でワインを飲み、道を一步一步着実に進んでいることを感じられる。

インポーターとしての最高の喜びを得られる瞬間です。

2020年はコロナで訪問できなかったのですが、秋には早速瓶詰めした2019VTGを送ってくれ、それを試飲してビックリです。無茶苦茶進化してるじゃないか、、、と。もう、すぐに熱いメールを送りました。

そして2021年11月、これは絶対に現地で会って話を試飲したい！コロナがまだ猛威を振るってる中でもめげずに渡独。

結果、さらに驚いたのはいうまでもなく、涙がでるほどうれしくて夜中0時まで滞在して一緒にワインを飲んでしまい、、、、帰りがもう大変だったので。。。

2022年夏にも弊社営業チームを連れて再度訪問！

全員が彼のワインと彼の人柄を大好きになってしまい移動の車中ではちょっと盛り上がりました。

ラインヘッセンチーム4人の中でも特異な個性を発揮しているJason、まだまだ進化の途中なので粗削りな部分は正直まだまだ垣間見えるのですが、彼の熱い将来に期待を抱かずにはおられません。



20

**[36429]Cuvée weiß キュヴェ ヴァイス22**

呼称	RheinischerLandwein ライニッシャー・ラントヴァイン		
参考小売	¥3,800		
規格/タイプ	750ml×6×2 / オレンジ・辛口		
栽培/認証	バイオロジック / EU bio Logo		
テロワール	土壌	標高・向き	面積・収量
	石灰岩	150m・北、南	0.5ha・70hl/ha
品種 (収穫/樹齢)	パッカス、フクセルレーベ、ピノグリ、ピノプラン ミュラートウルガウ、ソーヴィニヨンプラン(手摘み/平均15年)		
	醸造 酵母 自生酵母		
発酵 熟成	8月下旬収穫 全房で40%は10日間醸し、60%は直接圧搾 空気圧式圧搾と垂直式圧搾 古樽とステンレスタンクで11ヶ月間発酵・熟成 無濾過・無清澄 / 瓶詰め:2023年8月		
	SO <sub>2</sub>	無添加 トータル:15mg/L未満	
アルコール度	10%		
特徴	粘土石灰・砂質土壌で育った6品種を全房で40%は10日間醸し後プレス、60%は直接圧搾し、古樽とステンレスタンクで11ヶ月発酵・熟成しました。淡いオレンジ色、アプリコットジャムや金柑、金木犀、ナツメの香りを感じます。オレンジピールのほろ苦さを感じるアタック、たっぷりの果実味にバランスのよい酸味、喉越しも良く、アフターまでトロピカルな香りが残ります。		



新着

**[35718]Pinot Gris ピノグリ20**

呼称	RheinischerLandwein ライニッシャー・ラントヴァイン		
参考小売	¥4,900		
規格/タイプ	750ml×12 / 白・辛口		
栽培/認証	バイオロジック / EU bio Logo		
テロワール	土壌	標高・向き	面積・収量
	レス	200m・北	0.75ha・50hl/ha
品種 (収穫/樹齢)	ピノグリ100% (手摘み/平均9年)		
	醸造 酵母 自生酵母		
発酵 熟成	8月下旬収穫 空気圧式圧搾と垂直式圧搾 18hlのステンレスタンクで24ヶ月間発酵・熟成 濾過あり・無清澄 / 瓶詰め:2022年8月		
	SO <sub>2</sub>	無添加 トータル:15mg/L未満	
アルコール度	11%		
特徴	レス土壌で育つ樹齢9年のピノグリを8月下旬に収穫しプレス、ステンレスタンクで24ヶ月発酵・熟成しサンスフルで仕上げました。粘性のあるグリーンイエロー色、柚子やライム、西洋スグリ、レモン、摘みたて桃のアロマを感じます。高めの酸味を感じるアタック、柑橘の酸味がしっかりとありボディの強さは感じますが、味わいはクリアで透明感があり中程度の余韻を楽しめます。		



新着

**[36430]Super Lecka スーパーレッカ22**

呼称	RheinischerLandwein ライニッシャー・ラントヴァイン		
参考小売	¥3,700		
規格/タイプ	750ml×6×2 / 赤・ミディアム		
栽培/認証	バイオロジック / EU bio Logo		
テロワール	土壌	標高・向き	面積・収量
	石灰岩	200m・南	0.5ha・60hl/ha
品種 (収穫/樹齢)	レгент、ザント・ラウレント ピノノワール、白ブドウ(手摘み/平均15年)		
	醸造 酵母 自生酵母		
発酵 熟成	8月下旬収穫 / 全房で空気圧式圧搾 アッサンプラージュし、 ステンレスタンクと古樽で 12ヶ月間発酵・熟成 濾過あり・無清澄 / 瓶詰め:2023年8月		
	SO <sub>2</sub>	無添加 トータル:15mg/L未満	
アルコール度	10.5%		
特徴	『超美味しい』という意味のキュヴェ名で複数品種を、全房でプレスしアッサンプラージュ、ステンレスタンクと木樽で12ヶ月発酵・熟成しました。透き通った淡い紫ルビー色、赤スグリやクランベリーのような穏やかな香りを感じます。口中に引き締まったような酸味、中程度のタンニン、アフターでは穏やかにベリーの風味がスーッとフェードアウトします。		



新着



酸化防止剤無添加の商品はお取り扱いにご注意ください(基本的に15度以下の保存をお願いします)



2019/06/06



2019/06/06